



あぐらのかける男の椅子

工業デザイナー秋岡芳夫が床座に慣れ親しんだ日本人のためにデザインした、低座椅子の傑作。あぐらもかける広い座面、上半身の動きを妨げない末広がり肘掛けが特徴です。

モノ・モノ(東京)

秋岡芳夫が1970年に結成した生活デザイン運動のグループを原点とし、家具やクラフトの開発から、出版、木工ワークショップ、木造住宅の設計コーディネートまで幅広く活動。



SPREAD chair

包み込まれるような背もたれにより、様々な姿勢で座ることができます。長時間の使用でも疲れにくい、食後の団欒を楽しむのにぴったりのダイニングチェアです。

匠工芸(北海道)

北海道の真ん中、旭川の家具メーカー。カラマツ林に隣接し、大雪山脈を一望する丘の上にある工場、職人の手仕事と機械加工の良さを組み合わせたものづくりに取り組んでいます。



SLOW・LLDアームチェア

5.6kgと軽量でソファ感覚で寛げる低めのチェア。座面は底着き感のない布バネ仕様。和室でも畳を傷めにくいよう床ずりを配したデザインにした。

日進木工(岐阜)

1946年飛騨高山で創立。一貫してモダンでシンプルデザインのものづくりを追求する。特に軽くて丈夫な椅子づくりを得意とする木製家具メーカーです。

ギャラリートーク 「日本人に適した食卓とは…」

日時：11月13日(日) 15:00~16:30

定員：15名程度(予約制)

※ご希望の方は下記の電話かメールからお申込み下さい。

参加費：無料

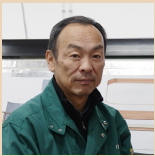
「家具は身体と暮らして選ぼう」という秋岡芳夫の提言にもとづき、ダイニングテーブルとダイニングチェアのあり方を、「日本人の身体」「食事」「住まい方」「コロナ以降」という4つの視点でデザイナーとともに考えます。



参加者全員に『新和風のすすめ』を差し上げます。



ゲスト



矢島浩(日進木工デザイナー)
1961年岐阜県高山市出身。1979年日進木工入社。試作課でもものづくりの基礎を確立し開発部勤務。シンプルで良質、長く使い続けられるデザインを志向する。



笠原嘉人(家具デザイナー)
1961年静岡県出身。武蔵野美術大学卒業後、漆芸家の工房を経てインテリアデザイン事務所勤務。1996年「笠原嘉人アトリエ」設立。



松岡智之(プロダクトデザイナー)
1992年千葉大学工学部工業意匠学科卒業後、(株)GK設計にてプロダクトデザイナーとして勤務。デンマーク王立芸術アカデミーデザイン科へ留学。その後、トモユキマツオカデザイン設立。



司会：菅村大全(モノ・モノ主宰)
1973年長崎県出身。カタログ雑誌の編集部を経て、フリーライターとして独立。2015年にモノ・モノの4代目代表に就任。

会期中は同時開催としてセラミックジャパンと安比塗漆器工房の食器類を展示販売致します。是非一緒にご覧ください。



セラミックジャパン
焼物の街、愛知県瀬戸市にある焼物メーカー。確かな技術と現在にふさわしいデザインが融合した製品を作っています。



安比塗(あっぴぬり)漆器工房
1999年開設。希少で高品質とされる岩手県産漆を上塗りに使用し、女性職人らが生活者の目線で実用的な漆器を作っています。